

INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL

46

2016

附属病院開院40周年

— 進化を続ける愛大病院 —

DOCTOR'S VOICE 01 立場の違いを超えて相談しあうことで、誰もが働きやすい環境へ

DOCTOR'S VOICE 02 切れ目のない医療で、病気治療と生活維持の両立を目指す

DOCTOR'S VOICE 03 地域包括ケアの担い手を目指す若手を待っています



女性医師の活躍

立場の違いを超えて相談しあうことで、誰もが働きやすい環境へ

皮膚科 助教 宮脇さおり
 医員 松本圭子

●医学部附属病院の皮膚科で、女性医師が活躍できる要因は何でしょうか？

宮脇／皮膚科は医師の男女比がちょうど半分ずつです。情報共有やコミュニケーションもよくとれ、お互いが協力しあえる状況が、いい結果を生んでいると考えます。

松本／私は現在子育ての真っ最中なので、平日は定時で帰らせていただいていますし、当直も私だけ月2回、休日のみという配慮をいただいています。他の皆さんは、平日でも休日でも当直をしていますから、皮膚科全体での配慮と実行が大きな要因だと思います。

●働きやすいと感じたエピソードを教えてください。

宮脇／私は、1年半ほど前に3か月ほどの休養をとりました。担当している仕事の引継ぎや休養後の復帰への調整を、時間をかけてとても入念にいただきました。そのおかげで、休養期間を感じないくらい、自然と業務に戻っていくことができました。皮膚科で



PROFILE

みやわきさおり◎松山市出身。1998年杏林大学医学部卒。名古屋市立大学病院皮膚科を経て2005年から現職。趣味は食べ歩きとよしもと観劇。皮膚科専門医。

は、女性医師が長くキャリアを築けるようにライフ&ワークをサポートしてくれます。

松本／子どもが突然病気になって、病児保育に連れて行ってから出勤した場合や、突然のお迎えでも、誰かがフォローに入ってください。



PROFILE

まつもとけいこ◎岡山市出身。愛媛大学医学部卒。愛媛県立中央病院等を経て2014年から現職。2児の母であり、現在育児に奮闘中。

●県内で働く、同じ女性医師へのアドバイスをください。

宮脇／一人で悩みを抱え込まないことが大切です。人それぞれ、人生における立場、そのときのステージは違います。子育てを一生懸命する状況、介護をする状況など、悩みもそれぞれだと思います。けれど、その悩みは必ず先輩方が体験しています。先を走っている先輩方に、まず相談をしましょう。私も皮膚科の先輩医師に相談しました。いろいろなアドバイスをもらい、解決の糸口が複数見つかりました。

松本／育児については、市の子育て支援を利用することで、負担を軽減することもできると思いますが、子育ても仕事も全てに頑張ると息が詰まってしまう。そんな時、私が姉のように慕う宮脇先生から「今は子どもに目を向けながら働く。今はできないことも、子どもが大きくなり、できる状況になればすればいい」とアドバイスを受け、気持ちが楽になりました。育児が落ち着いた頃、いつか他の医師が同じような状況になれば、その時は自分がフォローにまわられたらと考えています。



総合的な患者サービスの提供

切れ目のない医療で、病気治療と生活維持の両立を目指す

総合診療サポートセンター 副センター長 広岡昌史

総合診療サポートセンター（TMSC）が目指すのは、切れ目のない（シームレスな）医療です。これまでの大学病院の考え方と対極にあります。治療を中心に考えるのではなく、患者さんの生活を維持しながら、高度な医療を追及していくという考え方です。患者さんは病気だけでなく、その背後に経済的なものや社会的なもの、人間関係など、様々な事情を抱えています。そのような患者さんに、医師・看護師だけでなく、社会福祉士や心理士、メディエーターなど多様な専門家が関わることで、治療だけでなく、患者さんの様々な事情も含め、総合的に解決することを目指しています。

また、TMSCでは、入院して治療に専念するとしても、退院後に入院前と同じ生活ができるようにと考えています。そこで、リハビリ部門の協力を得て、入院中に筋力を維持するための「あいだい体操」を考案しました。家庭や地域に戻っても、入院前と同じように生活してもらうために、患者さんには入院中にあいだい体操を続けてもらっています。他にも、社会福祉士が介護保険等の手続きを代行したり、心理士が患者さんや家族の心理的な問題を聞き取ったりと、大学病院でここまで総合的に診療外サポートをしているところは、当院以外見当たりません。今後も愛媛モデルとして様々な取り組みを行っていきます。医療や看護、福祉等について、お困りごとがあれば、TMSCにご相談ください。



PROFILE

ひろおかまさし◎1998年愛媛大学医学部卒業。総合内科専門医資格の他、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本超音波医学会、日本肝臓学会などの専門医・指導医を持つ。特に肝疾患の画像診断、低侵襲治療に従事。趣味はスタジアムでのサッカー観戦（国内、海外を問わず）。座右の銘は「つらい時も明るくすればがんばれる」

FROM VIP DOCTOR

愛媛大学医学部附属病院に期待すること 『VIP DOCTOR に聞く』

地域包括ケアの担い手を目指す若手を待っています

愛媛県立南宇和病院院長 鶴岡高志

愛媛大学医学部附属病院に期待することは、医師の育成と、特殊な疾病や難病に対する最先端の研究です。愛媛県内唯一の次世代の医師を育成する教育機関として、最先端の研究も進めつつ、情報発信を高めて若い人を集め、優秀な医師を育ててほしいと思います。また、最新の研修施設や斬新な研修プログラム等を活用し、当院を含め、県内の病院へ医師を派遣し、医師不足の解消を期待しています。南宇和病院は、愛媛県最南端の総合病院で、救急医療も行う地域の要として欠かせない存在です。以前、当院には常勤医が23人いましたが、現在は医師の確保が難しく、常勤医は10人です。しかし、昨年から愛媛大学のStudent Doctorが当院で2週間ずつ研修する取り組みが始まりました。また、愛媛大学の医学生等が、地域医療の現状と課題を学ぶ「愛南町の医療を考える会」も継続的に開催されており、これらの繋がりを大切にしたいと思っています。愛南町は、食べ物が美味しく、子育てがしやすい環境です。愛南町に来られる医師が地域医療に興味を持ち、愛南町で地域包括ケアに取り組もうと思ってくれることを期待しています。最後に、当院は地域包括ケアシステムの中核として、愛南町で医療を担う先生方と共に地域を活性化し、支えていきたいと思っています。



PROFILE

つるおかたかし◎1981年愛媛大学医学部卒業後、県内の多くの医療機関を経て、1993年愛媛県立南宇和病院に赴任。2013年から現職。地域包括医療・ケア認定医。趣味は釣り、映画鑑賞、ランニング、サイクリング。好きな言葉は「鶏口牛後」。

愛媛大学医学部附属病院 トピックス

お気軽にご相談ください

あいだい体操



当院では、入院関連機能障害 (HAD) を防ぐため、入院患者さんに「あいだい体操」に取り組んでもらっています。HADとは、長期の入院が原因となって筋力が低下し、歩行障害等の機能障害を来す状態のことです。あいだい体操はHADを予防することを目標に制作した独自の体操です。座ってできる体操など、療養先または自宅でも継続しやすい内容になっています。退院後の生活が円滑に過ごせるあいだい体操を是非ご利用ください。

総合診療サポートセンター ☎089-960-5261

愛媛研修医OSCE大会の実施



平成28年9月4日(日)、愛媛研修医OSCE大会を実施しました。OSCE(客観的臨床能力試験)とは、医師として患者さんに接する基本的臨床能力が備わっているかを評価する実技試験です。全国では、臨床実習前の学生を対象に実施していますが、本大会は、全国に先駆けて2年次研修医を対象に実施し、注目されています。県内各病院の研修医が模擬患者やシミュレータを相手に診察や検査手技を行う課題に取り組み、真摯に課題に向き合う姿が見られました。

総合臨床研修センター ☎089-960-5098

ハワイアン コンサートを開催



平成28年8月4日(木)、七夕行事としてハワイアンコンサートを開催しました。今回は、「コーラル・ハワイアンズとフィオ・ピカケ」が、ハワイアンミュージックとフラダンスを披露しました。また、プログラムでは「川の流れるように」などの唱歌の演奏もあり、患者さんも一緒に合唱しました。外来ホールに集まった患者さんは、さわやかな南国気分になり、楽しいひとときを過ごしました。

医療サービス課
☎089-960-5099

編集後記

昭和51年10月2日に開院した愛媛大学医学部附属病院は、本年10月2日に40周年を迎えました。15診療科、320床でスタートした当院は、24診療科、42の中央診療施設、644床と大きく発展し、また、常に最新の医療機器と専門スタッフを配置し、地域に根ざす医療を実践してきました。

表紙は、最新の放射線治療器、リニアック(TrueBeam™)です。体内のがん病巣に対し、放射線のピンポイント照射や、強度変調放射線治療が可能な最新機器です。当院は開院当初から、県内の最先端医療の実践に努めてきました。これからも基本理念である「患者から学び、患者に還元する病院」のもと、愛媛の医療を支えるべく、更なる発展を目指します。

本号は、皮膚科の女性医師とTMSCの紹介、当院に期待することについて南宇和病院の鶴岡高志院長に伺っています。是非、ご一読ください。

広報委員会委員長 高田清式

◎表紙
最先端リニアックと放射線部スタッフ

ボランティア感謝状贈呈式を実施



平成28年7月15日(金)、ボランティアいきいき会の定期総会及び感謝状贈呈式を開催しました。これは、当院でのボランティア活動時間が、200時間及び500時間に達した方々に感謝を伝え表彰するものです。今回は、17人を表彰し、その後、意見交換を行う懇親会を開催しました。当院は、今後もいきいき会と協力し、患者さんに安心と安らぎを与えるサービスを提供できるよう日々の活動に努めます。

医療サービス課医療福祉チーム ☎089-960-5099

リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2016えひめに参加



平成28年10月1日(土)、2日(日)に開催された「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2016えひめ」に当院も参加しました。リレー・フォー・ライフは、昼夜たすきをつないで交代で歩き続けることにより、がん患者・家族・市民が同じ時間を共有し、一体となってがんについて考え、支えあうイベントです。当院からは、様々な職種で構成されたチームが参加し、たすきだけでなく、患者さんやご家族の想いもつないで24時間歩き続けました。

総合診療サポートセンター ☎089-960-5261